

2017年にオープンする注目のスポット

●2017年も新名所が続々と誕生予定

松坂屋銀座店跡地を含む大規模再開発「GINZA SIX(ギンザ・シックス)」や、大手町の開発街区「大手町ホトリア」をはじめとして、2017年もさまざまな注目スポットのオープンが予定されています。今回は、〈変わるTOKYO地図〉の新春版として、2017年にオープンする新名所についてみていきます。

●「大手町ホトリア」に超高層ビルが誕生

千代田区大手町一丁目の街区「大手町ホトリア」に2017年1月末、地上29階建て・高さ約140mの超高層ビル「大手町パークビルディング」が竣工予定です。

「大手町ホトリア」は、三菱地所とJXホールディングスが共同開発する国際ビジネスの支援施設を整備するプロジェクトで、「大手門タワー・JXビル」と「大手町パークビルディング」の2棟の高層ビル、および皇居外苑濠のほとりの緑豊かな「ホトリア広場」と商業施設で構成されています(隣接の「大手町センタービル」も「大手町ホトリア」に含まれます)。

事務所、店舗、駐車場等が入る「大手門タワー・JXビル」(地上22階建て・高さ約100m)は、2015年11月に竣工済みで、「大手町パークビルディング」は1月下旬頃の竣工予定です。同ビルで注目されているのは、地上22～29階のサービスアパートメント(※1)です。グローバルビジネス拠点、大手町初の「住」機能として、シンガポールのサービスアパートメント高級ブランド「Ascott The Residence(アスコット・ザ・レジデンス)」が日本初出店し、東京の国際競争力の一翼を担います。

●多機能な施設で銀座が国際的な観光拠点へ

同じく1月末頃、銀座では市街地再開発事業「GINZA SIX」の本体建物が竣工予定です。同事業では「松坂屋銀座店」跡地を含む街区(銀座六丁目10番)と隣接する街区(銀座六丁目11番)の2つの街区約1.4haが一体的に整備されます。

銀座エリア最大規模の複合施設となる建物規模は、地下6階・地上13階建て、延床面積約14万7,900㎡に、店舗、事務所、文化・交流施設、地域冷暖房施設、駐車場などが計画

されています。

4月20日開業予定の商業施設には、241のブランドが集まる他、日本の伝統文化の発信拠点として「観世能楽堂」が誕生します。また、観光客向けのサービス機能や観光バス乗降所を備えた観光拠点、屋上庭園、災害時の帰宅困難者受入れ環境も整備され、地域の利便性や快適性、防災機能向上に貢献します。

さらに、秋頃には同じ銀座6丁目に「銀座朝日ビル(仮称)」が誕生します。同ビルには、日本初進出となるハイアットの国際的なブランドホテル「ハイアット・セントリック銀座東京(Hyatt Centric Ginza Tokyo)」が2018年初頭に開業する予定です。

建物規模は地下2階・地上12階建て、延床面積1万6000㎡。1～2階は商業施設、3～12階に164室のホテル客室となります。「100年の灯」をコンセプトに、銀座の街並みと調和する品格ある外観デザインも話題となりそうです。

●新たな店舗を誘致し、人を呼び込む施設も

都心から離れて調布市に目を向けると、京王電鉄が京王線・相模原線の連続立体交差化で生じた京王線「調布」駅付近の敷地を有効活用し、A館(地上5階建て、延床面積約1万6,000㎡)・B館(地上4階建て、約6,000㎡)・C館(地下1階・地上5階建て、約1万6,000㎡)の3棟からなる複合商業施設を建設中です。

秋頃に、3館合計で70店舗が開業する予定で、A館にはレストランや物販などの専門店が、C館には核テナントとしてシネマコンプレックスがオープンします。

そして、B館には京王電鉄が誘致し、「ビックカメラ調布駅店(仮称)」が開業します。調布エリアに不足している大型家電量販店を誘致することで、調布を訪れるきっかけとする狙いだそうです。

この他にも、さまざまなスポットのオープンが予定されており、2017年も東京のさらなる発展が期待されます。

(※1)サービスアパートメントは、ホテルのような空間に家具・家電などの生活設備が整った期間限定の賃貸マンション。海外や地方から長期出張のビジネスパーソンの利用が多い。

東京今昔物語466

文京区の「団子坂」

文京区千駄木二丁目と三丁目の境を東へ下るところに「団子坂」があります。名前の由来は昔、坂の上に団子屋があったとする説、坂の勾配が急で、雨の日に人が転ぶと泥まみれの団子のようになったとする説があります。かつて坂の上には森鷗外の住居があり、坂の途中に住居跡を残した鷗外記念本郷図書館が佇んでいます。また、



「団子坂」は鷗外の『青年』や、同じく坂の上に住んだ夏目漱石の「吾輩は猫である」、二葉亭四迷の『浮雲』、正岡子規の俳句など、多くの文芸作品に登場しています。明治期には二間半(5m弱)の狭い坂道だったようですが、現在は道幅が20m近くに広がり、車の往来も頻繁ながら、周辺の風景には史が垣間見える場所です。